



➔ Massachusetts Institute of Technology

Bryan R. Moser, Ph.D. 教授講演

MIT



9月12日(土)にマサチューセッツ工科大学(MIT)Moser教授によるオンライン講義が実施されました。Moser教授には、例年夏季休業中のグローバルリーダー育成海外派遣研修「ボストン・ニューヨーク研修」でMITを訪問した際、講義をお願いしています。今年度の海外派遣研修は中止となってしまいましたが、Moser教授の御好意でオンライン講演が実現しました。アメリカ(ボストン)とのオンライン通信は13時間の時差があり、土曜日早朝の開催となりましたが、60名を超える生徒が参加し、関心の高さがうかがえました。

【講演内容】

1. Life is complex (人生とは複雑である)

→複雑なものに好奇心旺盛であること。課題解決が偉大なことであるため、常に様々なことに好奇心をもち、複雑なことに目を向けて取り組まなければならない。コンピュータ科学やAIの台頭により「How to learn」どう学ぶか、ということより「How do we do」実際どう行動していくかが重要になっている。

2. Collaboration is Fundamental (共同作業が基本である)

→常により良いものを目指すには相互に作用すること。課題解決のためには、まず目標達成を想像し、今なにが完了してないかが足りないのかをリストアップする。そして未完了の部分の解決に向けて実行に移す時に、共同作業が大切である。単独行動では欠陥が必ず生まれそれを指摘する人がいないが、協力することでその欠陥を直し合いながら課題解決のステップを踏むことができる。

3. Solving Problem is Risky (課題解決にはリスクを伴う)

→課題解決にはリスクを伴うが、何もしないことはそれ以上にリスクである。多様で複雑な社会に対応するように、多様で複雑な技術革新に向き合っていくことが大切である。複雑な社会で課題解決を目指すことにリスクがあるのは常なので、それを理解しながら科学者は課題解決を楽しむべきである。

4. Global Science and Engineering is Tough (グローバル社会での科学と技術設計は困難である)

→文化を超えて行動することが大切である。文化を超えようとするとき、個々の背景(宗教や政治観など)が違うため、感情論は危険である。始めはうまくいかないかもしれないが、それでも文化の障壁を乗り越えることは必要条件であり、差異を受け入れて文化を混ぜることが重要だ。

5. Being local (地域に目を向ける)

→地域に目を向けるメリットは、施策を実行できる実現性、インタラクションが簡単なこと、即ち



人々との調和にコストがかからないことである。各地域の課題やメリットを調和させながらグローバル社会の知恵として昇華させることが、次の段階では必要である。

6. Not to be alone (一人にはならないこと)

一人でいると課題を見てみぬふりをして避けられるが、実行と経験だけが私たちを育てるのである。



<教授からの投げかけ・まとめ>

なぜ国というものがあるのか？ 広大な地球という土地を持っているのに私たちが持っている資源は少ない。その少ない資源を地球全体で活用し持続可能な社会を作るためには国を超えた協力が欠かせない。日本にはグローバルリーダーが必要である。また世界が日本を必要としている。日本人であるという identity を生かして、国を超えた他者と協力するべきだ。

【生徒感想】 (一部抜粋)

・教授の話をきいて、グローバル化とは何かを再確認することができた。ここ数か月、グローバル化の究極は文化の同一化であるという意見を述べる本を多く目にしたが、教授のいうコラボレーションこそがグローバル化の本質だと思った。グローバル化に際して、様々な問題が生じ、その度に世界規模なものとして捉えてしまいがちだったが、もっと日常的な、人単位の問題でもあるのだと知ることができた。また、教授の講義はユーモアがあり、面白く、話の内容についていきやすかった。なるべく聴き手に寄り添って話をしたり、ジョークを交えて聴き手の意識を向けたり、これからの自分の発表に活かせる要素が多くあった。教授の話は海外研修の生徒以外の生徒にも、より多くの生徒に聴いてもらうべきだと思った。来年も再来年も、この講義が人と限らず聴くことのできるものであってほしい。

・「Life is Complex」この言葉が今回の講義で最も印象に残りました。アフリカなどでの森林破壊やシリアの難民問題などを調べてみて、これらの問題が単一の原因に由来するのではなく、あらゆる文化や歴史の上で生じていた問題であると実感しました。私は全ての物事に、明確な理由や規則を求めて理解しようとする癖がありました。例えば、全ての英文を参考書に載っている英文法に当てはめて理解しようとしていました。しかし実際には、著者の感情が入り、省略や慣用表現も用いられます。同様に社会の様々な問題も、明らかな解決方法はないのではないかと思います。様々な文化の価値観の違い、様々な人々の立場の違いなどが問題を生み、それがまた別の問題と関わるなど、とても複雑な形で存在しているからです。これからは「Life is Complex」の言葉を念頭に置き、少しずつ、時に妥協もしながら、問題を解決しようと思います。あらゆることに興味をもち、できることはやってみるという精神も大切にしたいと思いました。



・全体的に英語が難しく、正しく理解できているかどうか分からないが、実際にマサチューセッツ工科大学の先生の話聞き、雰囲気でも味わえただけでもとても良い経験になった。個人的には質問コーナーが一番共感することができた。特に、大学受験では、学部などを分けることなく大きく捉えることで可能性も大きくなる、という話が印象に残った。自分は来夏から1年間アメリカに留学する予定である。能力的に言語の壁を乗り越えることは大変で辛いですが、教授が言っていたように“smart risk”を冒して、充実したものにしたいと思った。またこのようなグローバル10の企画があったら参加したい。

◆ 東京グローバル10、ニュージーランド姉妹校交流参加OB・OGによるワークショップ（オンライン）第2弾

8月11日（火）に東京グローバル10、ニュージーランド姉妹校交流参加OB・OGによるワークショップがZoomを利用して実施されました。この企画は、6月に実施されたワークショップに続く第2弾となります。これまでの海外研修に参加された先輩方が、自分たちが学んできたものを少しでも今年での研修生に学んで欲しいとの想いで企画され、実施されました。

今回のテーマは「ファシリテーション」でした。先輩方がG10の研修に取り組んだ際、「プレゼンテーションを実施する度に、一から案を考え直すことになった経験」、「話し合いがなかなか前に進まなかった経験」、「事業アイデアが出ない、出ても懸念事項が多くすぐに廃案になった経験」、「チーム内で感情的な対立に発展した経験」から、現在の研修が「ファシリテーション」を学ぶことが有意義だと考えました。ファシリテーションの技術を活用することでグループの話し合いが活発になり、創造的なアイデアが生み出される効果が期待できます。

始めにファシリテーションについての説明があり、その後具体的な事例について実践が行われました。1回目の話し合いでは大学生がファシリテーター役を務め、2回目の話し合い時に高校生がファシリテーターを務めるという手順で実施されました。

1回目の話し合いのテーマは「1万円で売れる鉛筆を作ろう」、2回目は「理想の乗り物を作ろう」というテーマ設定で実施されました。演習では、活発な意見交換が行われ、どうすれば円滑で効率的、建設的な議論ができるかが話し合われました。

最後に先輩方からのまとめとして、「ファシリテーションは構造化する力（論理的思考力）であり、論点を明確にすること、話し合いを論理的に捉えることが大切であること。そのために、問い掛け方を工夫したり、評価軸を明確にしたりすることの重要性」についてお話がありました。

【参加生徒の感想】（一部抜粋）

・話し合いをする際に、論点がずれたり、話し合いがあるかあたら来たけど何を話すのか分からない、といったことが多発していたので、それらをなくすためにいい講習会となった。もともと話し合いの進行をするのは好きで、「論点は？終着点は？」といったことや「この準備があればよかったのに」と思うことがかなりあったので、それらを系統だてて論理的に学び、実践するというのは面白かった。

・ファシリテーションをこれから実践していく上で、どのような力が必要なのかを具体的に教えてもらったのはとてもありがたかった。また、大学生に丁寧にフィードバックをしてもらったのも貴重な経験になった。

・意見が尽きなくて楽しかった。現役生のみで話し合った後にいただいたフィードバックを踏まえ、もう一度話し合いができるといいなと思った。

・とても楽しかったです！今後の活動、G10だけでなく、授業でも生かしていきたいです。

・案を出す時に、ばかにされるかな、などと考えて、自ら案を消すのはすごくもったいないことで、案

を出してみれば皆が反応してくれるので、臆さずに案を出すことが大事だと思った。

・案の出し方が自分にとってとても新鮮だった。これまでは自分の中で実現可能性などを考慮してある程度打ち消してから発言していたが、これからはまず質より量重視で案を出してみようと思った。

➡ 韓国ミチュホル外国語高等学校からビデオレターが届いています！

すでに Classi にて連絡済みですが、韓国ミチュホル外国語高等学校の日本語学科2年7、8組の皆さんからビデオレターが届いています。コロナ禍の影響により海外派遣研修は中止となっていますが、交流活動を止めることなく、継続させていこうという思いが込められています。

映像では、生徒の皆さんの日本語によるコメントや、学校生活の様子を見ることができます。



5分程度の短い動画ですので、ぜひご覧ください。Classi にリンクが貼ってあります。

グローバル委員会からのお知らせ

グローバル委員会が主催する講演会を開催します！

農林水産省の職員の方をお招きして講演会を行います。(オンラインではなく対面式です)
内容は、第1回目が「農林水産省の役割や職務内容について講師の先生の経験談を交えながらの講演」(予定)、第2回目が「プレゼンテーション技術について」(予定)です。

詳細は、10月中旬頃、校内掲示しますのでそちらをご覧ください。

実施日(予定)：

第1回目 10月30日(金) 場所：大会議室

第2回目 11月 5日(木) 場所：大会議室